

<全体分析>

試験時間 60 分

解答形式

大問4題ともマーク式。

分量・難易(前年比較)

分量(減少・やや減少・**変化なし**・やや増加・増加)

難易(易化・**やや易化**・変化なし・やや難化・難化)

分量は大問4題, 小問50問で, 昨年の2/2日程と比較すると変化なし。

難易度は, 昨年の2/2日程と比較するとやや易化した。

出題の特徴や昨年との変更点

地域 アジア史から2題, 欧米史から2題で関西大学の典型的な出題内容。

時代 中世からの出題がなかった。

その他トピックス

〔IV〕で地図を用いた新形式の出題がなされた。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
〔I〕	マーク空所	古代ギリシア・ローマ時代の戦争	古代ギリシアからローマ時代にかけての代表的な戦争をテーマに, 政治史から出題。ほとんどが平易な問題であった。	易
〔II〕	マーク空所 マーク正誤	イエズス会宣教師の中国での活動	『紅樓夢』に書かれているマテオ=リッチが献上した機械時計に関する記述を引用しつつ, イエズス会宣教師の中国での活動をテーマに文化史や政治史を出題。明代の文化について正文を選ぶ問1は, (イ)が正解であろうが、『世界史用語集』などでは考証学の成立を明末としているものもあり, (エ)も正解となりうる。	標準
〔III〕	マーク空所	ヘンデルとバッハの生涯	リード文を二つに分け, 前半でヘンデル, 後半でバッハの生涯をたどりながら, 関連する当時のヨーロッパの出来事について出題。手薄になりがちな文化史の問題を含んでいるが, 全体に標準的な問題であった。	標準
〔IV〕	マーク空所 マーク設問 マーク正誤	19世紀に東アジア諸国が結んだ条約 (地図使用)	清朝・朝鮮・日本について, 19世紀にこれらの国が結んだ代表的な条約をテーマに, 政治史を中心に。出題。問4は, 問題文で伏せられている「天津」条約と「北京」条約の名を特定したうえで, 二つの都市の位置を地図から選ばせる新形式の問題であった。	標準

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

一部に細かい事項を問う出題もみられるが、教科書に沿った内容の問題が中心なので、まずは教科書の内容をしっかりと学習することが肝要である。手薄になりがちな文化史も、しばしば問われる分野なので、やり残しを作らないように十分な対策をとっておくことが必要である。地理的な知識を問う問題もしばしば出題されているので、資料集や地図帳を利用した学習が効果的である。過去に出題されたものと類似した問題もしばしば出題されるので、本学の過去問をできるだけ多く解いておくことはよい対策になるであろう。